



SDGs 進捗レポート 2023



別冊 GCNJノン・ビジネス会員による
連携・協働の取り組み

GCNJ ノン・ビジネス(企業以外)会員による連携・協働の取り組み

2022 年に実施した「SDGs 実態調査」の中から、ノン・ビジネス(企業以外)会員対象の設問である「SDGs ゴール達成のため、企業・自治体・アカデミア・非営利団体と連携・協働している主な取り組みの概要を紹介してください」について、回答いただき、公開の許可を得られた 14 の取り組みを掲載しています。

前回 2021 年の「SDGs 実態調査」までは、企業、ノン・ビジネス会員すべてに対し同じ設問を用いて調査を行ってきましたが、ノン・ビジネスは、企業とは成り立ち、また、事業運営の考え方が異なるため、今回 2022 年から、ノン・ビジネス会員に対しては、企業会員とは異なる調査内容としました。なお、この考え方は国連グローバル・コンパクトにおいて共通しており、企業とノン・ビジネスでは要請されるレポートの提出内容や頻度も異なっているため、その点も参考としました。

ノン・ビジネスのこの取り組み事例を御覧いただき、SDGs を推進するため、他の団体や企業との連携を実践するための参考としていただければ幸いに存じます。

■ 掲載に同意した 14 会員

学術・協会・法人団体

一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク

学校法人 大阪夕陽丘学園

関西学院大学

一般社団法人 国際開発センター

国際基督教大学

上智大学

学校法人 聖学院

公益財団法人 地球環境戦略研究機関

一般社団法人 日本印刷産業連合会

公益財団法人 日本サッカー協会

一般財団法人 日本食品分析センター

特定非営利活動法人(NPO) 道普請人

自治体

壱岐市役所

川崎市

■ 調査概要

調査に参加したノン・ビジネス会員数：20 会員

設問：

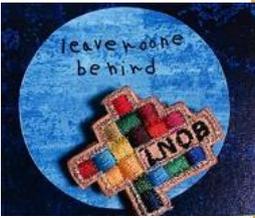
- Q1. どのゴールを重点に選んで活動していますか？
- Q2. 上記ゴール達成のため、企業・自治体・アカデミア・非営利団体と連携・協働している主な取り組みについて。対象となる SDGs ゴール（SDGs ターゲット（169）も特定していればその No.を）
- Q3. 本取り組みの目的
- Q4. 連携先
- Q5. 具体的な取り組み内容
- Q6. 成果
- Q7. 開示 URL

■ 掲載に同意した 14 会員による連携・協働の取り組み

学術・協会・法人団体

一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク

1) 団体の活動の中で重視しているゴール	ゴール 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
2) 連携・協働の取り組みで対象とする SDGs ゴール及びターゲット	ゴール 8(8.5), 17(17.17)
3) 取り組みの目的	事例 1) SDGs の普及啓発、行動促進へのきっかけづくり 事例 2) 障害者支援を通じた SDGs 連携
4) 連携先	事例 1) 阪急・阪神 HD 株式会社, 事例 2) ブラザー工業株式会社
5) 取り組みの内容	事例 1) 同社グループの社会貢献活動「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」の発足 10 周年を機に運行を開始した、SDGs の達成に向けた多様なメッセージを発信する特別企画列車「SDGs トレイン 未来のゆめ・まち号」における企画監修を実施。 事例 2) SDGs ジャパン会員団体しんせいさん、山口産業株式会社さん、ブラザー工業さん等と共に、SDGs ジャパンの会員 SDGs バッジを作成する過程での連携。その後、好評により、会員以外には、実費相当で販売。

6) 成果	-
7) URL	事例 1) https://www.hankyu-hanshin.co.jp/yume-machi/sdgs-train-archive/ 事例 2) SDGs ジャパン https://www.sdgs-japan.net/partnership
関連イメージ	 

学校法人 大阪夕陽丘学園

1) 団体の活動の中で重視しているゴール	ゴール 4, 5, 12, 17
2) 連携・協働の取り組みで対象とする SDGs ゴール及びターゲット	ゴール 12
3) 取り組みの目的	本学園の高等学校の取組として、古い制服のリサイクル繊維を使用した SDGs 制服の着用。同じく高等学校の取組として、体育祭の T シャツを自分たちで回収したペットボトルの再生利用の繊維で作って着用。
4) 連携先	明石スクールユニフォームカンパニー PET ボトルを持ち込んで、繊維にした会社 (https://kyoei-jtkankyo.co.jp/) その繊維を使用して T シャツを作成した会社 (https://akashi-suc.jp/)
5) 取り組みの内容	国連 GC・GCNJ に加盟した翌年から、高校全体で取り組めることに着手しました。2021年の1年生から SDGs 制服着用。2022年の体育祭で、回収したペットボトルの再生繊維での T シャツ着用。
6) 成果	ペットボトルの回収には、高校全校生徒約 1200 名が参加。回収したペットボトルは 2000 本。数量では測れないものとして、生徒の意識が SDGs により向くようになってきている。

7) URL	https://www.oyg.ed.jp/campus/uniform/
関連イメージ	 <p>高校内での生徒によるペットボトル回収</p> <p>三者での記念撮影（左から協栄 J&T 環境の担当者、明石スクールユニフォームカンパニーの担当者、大阪夕陽丘学園高等学校の生徒二人、大崎校長と担当教員）</p>

関西学院大学

1) 団体の活動の中で重視しているゴール	特定のゴールを選んで活動していない
2) 連携・協働の取り組みで対象とする SDGs ゴール及びターゲット	ゴール 4, 11, 12, 13, 14, 17
3) 取り組みの目的	学内でのペットボトル消費量削減
4) 連携先	株式会社エンリッジョン、株式会社スノーピーク
5) 取り組みの内容	<p>【ペットボトル削減エコシステムの構築】</p> <p>2020年6月に、関西学院大学とスノーピークが包括連携協定を締結。同年8月、オリジナルマイボトルの開発・利用普及により、キャンパス内のペットボトル消費量を10万本削減するというSDGs推進目標を設定。神戸三田キャンパス（KSC）の学生有志がスノーピークの商品開発担当者とコンセプト設計からパッケージまでを約半年かけて考案。プロモーション動画も制作し、2021年4月からKSCの学生を対象にマイボトルの販売を開始。同月に、理系学生のビジネスマインド醸成を目的として、学生がキャンパスにいながら企業との接点を持つことができる新たな学びの場「BiZCAFE」をオープンし、在学期間中オリジナルマイボトルを持参した学生に対し、コーヒーや紅茶等の飲料を無料で提供。学生が無理なく、気軽に始められるSDGs推進として、ペットボトル削減エコシステムを構築した。</p>
6) 成果	3,815本のマイボトルを販売（2023年1月時点）、2021年度には77,340杯のドリンクを提供、約148,000本のペットボトルごみを削減。
7) URL	https://ksc100000pr.com/?_ga=2.264488844.2021683441.1666418042-1726608252.1666418042



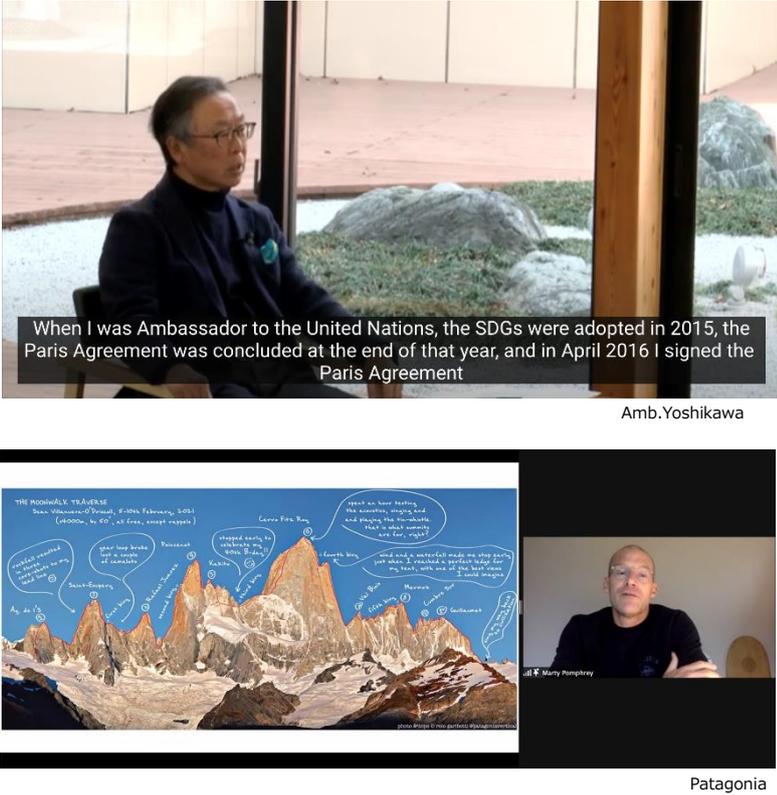
一般財団法人 国際開発センター

<p>1) 団体の活動の中で重視しているゴール</p>	<p>ゴール 5, 8, 17</p>
<p>2) 連携・協働の取り組みで対象とするSDGs ゴール及びターゲット</p>	<p>ゴール 5(5.1), 8(8.5, 8.7), 17(17.9)</p>
<p>3) 取り組みの目的</p>	<p>現在の中核事業は、国際協力分野の調査研究・技術協力・人材養成であり、ターゲット 17.9「開発途上国における能力構築の実施に対する国際的支援を強化する」の実現を目的として、受託コンサルティング事業と自主事業を展開しています。さらに、職場と働き方における職員の自由を尊重し、女性が活躍する職場を作ることを目指しています。</p>
<p>4) 連携先</p>	<p>国際協力機構、省庁（外務省等）</p>
<p>5) 取り組みの内容</p>	<p>国際開発センター（IDCJ）は、1971年に財団法人として設立された開発・国際協力分野専門の総合的なシンクタンクです。2010年に一般財団法人に移行するとともに、同年、子法人として株式会社国際開発センターを設立し、受託調査を含むコンサルティング事業と人材養成事業を株式会社に移管しました。株式会社国際開発センターは76名（2022年10月1日時点）の研究員を抱えており、開発途上国の社会経済事情に精通する専門家を擁する日本でも屈指の組織です。専門とする分野は、行財政、地域開発、社会開発、農業開発、産業開発、運輸交通、評価など多岐にわたっています。ODA事業では、国際協力機構（JICA）、省庁、国際機関から受託する国際協力関連調査やプロジェクトの実施が主たる業務であり、当センターの活動地域はアジア、アフリカ、中南米など世界各地に広がっています。</p>
<p>6) 成果</p>	<p>政府開発援助（ODA）に関する政策や事業の形成、実施、評価に携わっており、対象とする分野は多岐にわたり、活動地域も世界各地に広が</p>

	<p>っています。2021年の実施案件を分野別割合で示すと、売上額ベースで上位から「教育・人材育成」が22%、「DX/ICT」が15%、「農業・農村開発」が14%、「都市開発・社会基盤・水」が11%、「運輸交通・物流」が11%となっています。地域別では、同じく売上額ベースで上位から「アフリカ」40%、「東南アジア」27%、「南アジア」8%となっています。</p>
7) URL	<p>https://www.idcj.jp/business/corporation/assistance</p>
関連イメージ	 <p style="text-align: right;">インドネシア JICA SDGs 支援事業</p>

国際基督教大学

1) 団体の活動の中で重視しているゴール	<p>ゴール 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17</p>
2) 連携・協働の取り組みで対象とするSDGsゴール及びターゲット	<p>ゴール 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17</p>
3) 取り組みの目的	<p>ICUの学生や教職員は、国連が採択した世界人権宣言の原則に立って大学生活を送る宣誓に入学式や就任式で一人ひとり署名している。世界人権宣言を起草した国連人権委員会委員長だったエレンア・ルーズベルト夫人が1953年に本学を訪れて以来の慣例となっている。国連グローバル・コンパクト（2009年署名）や国連アカデミック・インパクト（2017年署名）にも参加し、自覚的に国連持続可能な開発目標を達成するための教育・研究・社会展開活動に取り組んでいる。その目的は、第二次世界大戦への深い反省に立ち、国際的社会人としての教養を備え、世界平和に資する人材を養成する本学のミッションを達成するためである。</p> <p> https://www.icu.ac.jp/globalicu/pledge/ https://www.icu.ac.jp/globalicu/globalcompact/ https://www.icu.ac.jp/globalicu/academicimpact/ </p>
4) 連携先	<p>国連大学 SDGs 大学連携プラットフォーム（SDG ~UP）、パタゴニア</p>

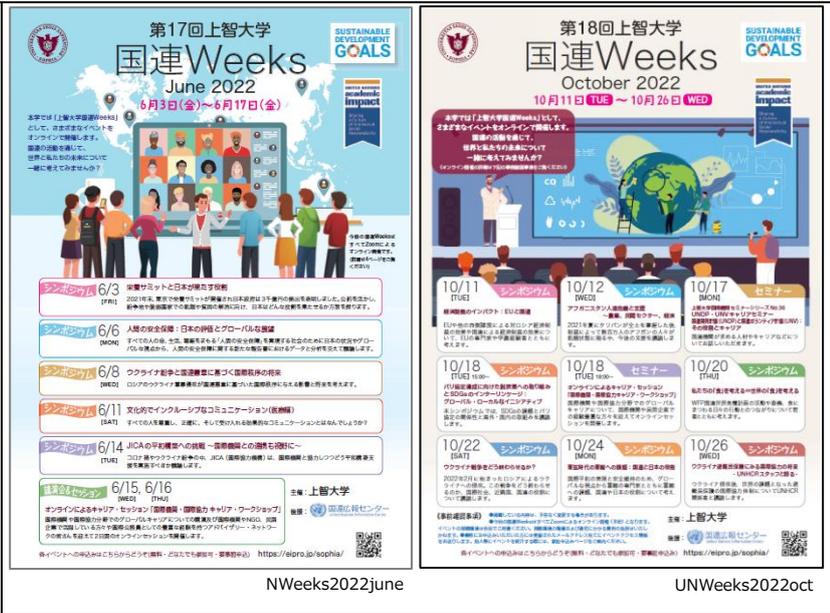
5) 取り組みの内容	<p>・2020年に国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)のイニシアティブによって設立されたSDG-UPにファウンディング・メンバーとして参画し、大学横断型オンライン授業プロジェクト「国連SDGs入門」の開発に取り組んだ。</p> <p>・2021年にICU SDGs推進室を設立し、卒業生ネットワークを通じてパタゴニア日本支社と連携して、「つくる責任、使う責任」に関する一連の活動を続けている。</p>
6) 成果	<p>・SDG-UPの参加12大学が開発したオンライン授業「国連SDGs入門」を15大学の学生が履修した。</p> <p>・パタゴニアとの連携プロジェクト「Worn Wear Workshop」(80名参加)などを実施した。</p>
7) URL	<p>https://spaceshipearth.jp/symposium-session2/ https://www.icu.ac.jp/news/2106041636.html</p>
関連イメージ (提供 ICU)	

上智大学

1) 団体の活動の中で重視しているゴール	特定のゴールを選んで活動していない
----------------------	-------------------

2) 連携・協働の取り組みで対象とするSDGs ゴール及びターゲット	特定のゴールを選んで活動していない
3) 取り組みの目的	本学は、1913年の建学以来、カトリックの伝統とイエズス会教育の特徴を受け継ぎ、多様な人々の相互の出会いと対話を通して、現代世界を分断する諸課題の解決に向け、「隣人性」と「国際性」を基盤とする教育研究活動を展開してきた。「叡智が世界をつなぐ」の言葉にこめられた建学の理念のもと、持続可能な人類社会の発展と人間の尊厳を守ることを目的に、様々な活動に取り組んでいる。
4) 連携先	国連広報センター, 国連大学
5) 取り組みの内容	<p>【上智大学 国連 Weeks】国連アカデミックインパクトの参加大学である本学では、2014年より毎年6月上旬と国連デー（10月24日）前後の10月下旬に「上智大学国連 Weeks」を開催している。「国連の活動を通じて、世界と私たちの未来について一緒に考える」をコンセプトに、国際シンポジウムや講演会、写真展、映画上映などさまざまな企画を開催している。</p> <p>【国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム】本学は2020年10月に加盟し、「大学マネジメント」、「SDGカリキュラム」、「大学評価とアカウンタビリティ」の分科会に参加し、加盟大学と協働プロジェクトを進めている。</p>
6) 成果	<p>【上智大学 国連 Weeks】これらの企画は本学学生だけではなく、広く一般の方にも公開しており、毎回大勢の社会人や高校生にもご参加を頂いている。2016年度以降の国連 Weeks では、SDGsに関連した講演会やシンポジウムなどの企画に力を入れている。</p> <p>【国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月30日に開催された公開シンポジウムにて、本学の 森下哲朗 グローバル化推進担当副学長が、マネジメントの取り組みについて発表 ・大学評価・アカウンタビリティ分科会では、上智大学がモデレータを務め、国内外のインパクトランキングの取り組みについて調査・分析し、加盟大学にフィードバックを行った。 ・カリキュラム分科会の「国連 SDGs 入門」に、ESG 投資の授業を提供。
7) URL	<p>【上智大学 国連 Weeks】</p> <p>https://www.sophia.ac.jp/jpn/global/program/UNWeeks.html</p> <p>【国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム】</p> <p>https://ias.unu.edu/jp/sdg-up</p>

関連イメージ



学校法人 聖学院

<p>1) 団体の活動の中で重視しているゴール</p>	<p>ゴール 1, 2, 4, 5, 7, 10, 12, 14, 16, 17</p>
<p>2) 連携・協働の取り組みで対象とするSDGs ゴール及びターゲット</p>	<p>ゴール 1, 2(2.1), 4, 7(7.2), 12(12.3, 12.5), 14(14.1)</p>
<p>3) 取り組みの目的</p>	<p>開発途上国への給食支援の活動や身近なところから環境問題を考えるワークショップなどを通して、児童、生徒、学生を教育すること、保護者、教職員など関わる全ての人の意識改革を行うことを目的としています。</p>
<p>4) 連携先</p>	<p>国連 WFP、国連 WFP 協会、一般社団法人 Earth Company</p>
<p>5) 取り組みの内容</p>	<p>①学食寄付メニュープロジェクト 大学の講演会で国連 WFP の職員をゲスト講師に招いたことがきっかけで 2019 年より実施している期間限定のプロジェクト。該当メニューの金額の一部が飢餓に苦しむ国の学校給食支援となります。好評につき 2022 年 12 月にも実施。</p> <p>②環境エコプロジェクト 聖学院小学校、聖学院中高、女子聖学院中高の 3 校が連携して 2021 年に開設した聖学院教育デザインセンター「SDGs・ESD 教育デザインユニット」のメインの活動の一つとして実施している「中高生SDGs プロジェクト」の今年のテーマは「環境エコ」。一般社団法人 EARTH COMPANY の指導を受け、学校内の電力使用量、廃棄物排</p>

	<p>出量、水の使用量などを調査、可視化、分析をして課題を抽出し、その課題解決のための具体的なアクションを計画し実践する活動を進行しています。「廃棄物削減」「CO2 削減・エネルギー」「水」「食・学校菜園」という4つのカテゴリーに分類したチームを作りパートナー企業と連携をしてプロジェクトを進行しています。</p>
6) 成果	<p>①学食寄付メニュープロジェクト 2021年12月6日～21日、2022年1月13日～2月4日で実施。 22,270円、給食約750食分を集めました。</p> <p>②環境エコプロジェクト 聖学院中高、女子聖学院中高の生徒、合計約80名が参加しており、6月のキックオフ以降毎月定期的にワークショップを実施しプランを考えています。学校内へのコンポストの導入、ペットボトル削減を目的としたウォーターサーバーの導入が行われました。また中長期の計画として再生可能エネルギーの電力への切り替えなども生徒主体で検討されています。</p>
7) URL	<p>①学食寄付メニュープロジェクト： https://www.seigakuin.jp/news/pressrelease/20211206_gakusyoku/</p> <p>②環境エコプロジェクト： https://www.seig.ac.jp/news/2728/</p>
関連イメージ	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">導入されたウォーターサーバー</p> <p style="text-align: right;">寄附メニュー</p>

公益財団法人 地球環境戦略研究機関

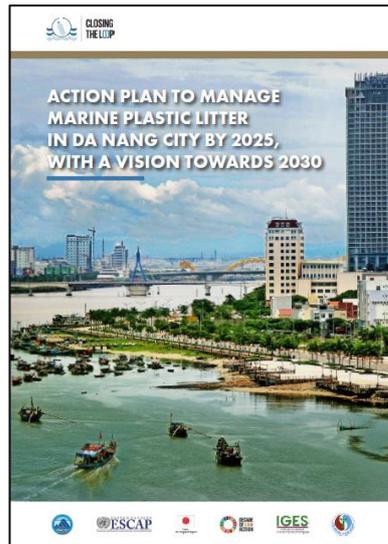
1) 団体の活動の中で重視しているゴール	ゴール 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
----------------------	---

2) 連携・協働の取り組みで対象とするSDGs ゴール及びターゲット	ゴール 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
3) 取り組みの目的	<p>2015年頃より、プラスチックによる海洋汚染が地球環境問題の一つとして認識されてきた。急速に経済発展を遂げ、廃棄物の収集・処分が十分ではない東南アジア諸国は、主たる発生源とみなされている。行政の横断的取組が急務とされ、2019年12月、ベトナム政府は「2030年までの海洋プラスチックごみ管理のための国家行動計画」を発表した。また、同政府は、人類が直面する最大の課題の一つである気候変動に対し、COP26において、2050年までにカーボンニュートラルにするというコミットメントを発表している。ベトナムにおいて、ダナン市は急速に経済発展している沿岸都市である。特に、廃棄物の発生量も増加の傾向にあり、プラスチックごみが占める割合は大きい。同市は、国家の行動計画に基づき、「ダナン市環境10年計画」を策定した。</p> <p>IGESは、「ダナン市環境10年計画」（2020-2030年）の策定プロセスにおいて、循環型経済、廃棄物、海洋プラスチック、低炭素開発等の分野で貢献した。また、「ダナン市環境10年計画」の実施を支援する取組を通じて、ダナン市がベトナムの2020年改正環境保護法施行のモデル都市として認知されること、さらにASEAN諸国においてもSDGs（持続可能な都市）の取組におけるマルチステークホルダーコラボレーションのモデル都市として認知されていくことを目指している。</p>
4) 連携先	横浜市, 環境省
5) 取り組みの内容	<p>IGESではSDGsを通してシナジー、コベネフィットに着眼しており、本取組に関しては、主に以下3つのプロジェクトで構成されている。</p> <p>①循環経済・廃棄物</p> <p>3R: 2017年以降、国際協力機構（JICA）の草の根技術協力の枠組を活用して、横浜市、ダナン市天然資源環境局（DONRE）と緊密に連携し、分別収集に関するモデル地区でのパイロットプロジェクトの実施およびダナン全市での分別計画策定を支援。</p> <p>プラスチックごみ：2020年から、国連アジア太平洋経済社会委員会（UNESCAP）、リーズ大学、国際自然保護連合（IUCN）など国内外のパートナーとともに、プラスチックごみの流出源や種類、流出経路を特定し、実現可能な目標を設定、プラスチックごみを監視・管理・測定するためのソリューションを提案した上で、ダナン市の海洋プラスチックごみ行動計画の策定を支援。</p> <p>②気候アクションプラン</p>

	<p>ベトナムのカーボンニュートラル宣言とダナン市環境 10 年計画の実現に向けて、具体的な CO2 排出削減のための行動計画として「地域気候変動対策計画（LCCAP）」を策定するために、5 つの主要セクター（建造物、交通、エネルギー、食料・農業、水管理、SDGs 相互連関）を対象としたアクションプランのフレームワークを作成。</p> <p>③教育 パイロット小中学校の生徒・教師を対象に気候変動の教材を作成。</p>
6) 成果	<p>①循環経済・廃棄物 3R:モデル地区でのパイロットプロジェクトの成功を受けて、2019 年に、分別収集活動の全市展開を決定。2025 年までにリサイクル率を 15% まで高めることを目標に掲げており、現在、市全世帯の 63%、全自治会/町内会の 83%が、発生源での廃棄物分別に参加している。</p> <p>プラスチックごみ:本プロジェクトを通して 2021 年 6 月に策定された同市「2030 年ビジョンに向けた 2025 年までの海洋プラスチック廃棄物管理行動計画」では、2030 年までに 95%以上の漁業者が漁具やプラスチックごみを海に放棄しない、80%以上の飲食業者がワンウェイプラスチック製品を海岸沿いの観光地で使用しない、90%以上の住居、学校、事務所などがごみ分別を行うという野心的な目標を掲げている。</p> <p>②気候アクションプラン SDGs 達成の目標とも関連づけたダナンのセクター別の気候変動アクションプランの原案を、ダナンの天然資源環境局と共同で作成した。市民の意識啓発への活用も目的としている。</p> <p>③教育 2022 年 3 月に教材が発行されて以降、教師約 50 名、生徒約 250 名が研修を受講。</p>
7) URL	<p>IGES ニュース、ダナン市におけるリサイクル・プラスチックゴミ対策など環境都市づくりへの貢献： https://www.iges.or.jp/jp/news/20220331</p> <p>Climate Action plan： https://www.iges.or.jp/jp/pub/danang-climate-actions/en</p> <p>Closing the Loop on Plastic Pollution in Da Nang City, Vietnam–Baseline Report： https://www.iges.or.jp/en/pub/closing-loop-baseline-report-danang/en</p> <p>ACTION PLAN TO MANAGE MARINE PLASTIC LITTER IN DANANG CITY BY 2025, WITH A VISION TOWARDS 2030:</p>

<https://www.iges.or.jp/en/pub/plastic-actionplan-danang/en>
 eLearning Course on Cities and Marine Plastic Pollution:
 Building a Circular Economy:
<https://www.iges.or.jp/en/pub/elearning-course-cities-and-marine-plastic-pollution-building-circular-economy/en>
 気候変動の教材（教師）：
<https://www.iges.or.jp/jp/pub/teachers/vi>
 気候変動の教材（生徒）：
<https://www.iges.or.jp/jp/pub/students/vi>
 横浜市：<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/kokusai/2022/0602kyoryoku.html>
 環境省：https://www.env.go.jp/earth/coop/lowcarbon-asia/project/data/JP_VNM_2021_PPT_01.pdf

関連イメージ



2025年までのダナン市における海洋プラスチックごみ管理のための行動計画、および2030年までのビジョン



ダナン市の長期ビジョン：2050年までのカーボンニュートラル戦略

一般社団法人 日本印刷産業連合会

1) 団体の活動の中で重視しているゴール	ゴール 3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 17
2) 連携・協働の取り組みで対象とするSDGs ゴール及びターゲット	ゴール 3(3.9), 5(5.1, 5.5), 6(6.3), 7(7.2, 7.3), 8(8.3, 8.4, 8.5, 8.9)9(9.5), 10(10.3), 11(11.4, 11.6, a), 12(12.4, 12.5, 12.7), 12(12.4, 12.5, 12.7), 13(13.3), 14(14.1), 15(15.1, 15.2), 17(17.17)
3) 取り組みの目的	日本印刷産業連合会傘下の印刷関連 10 団体に所属する会員企業約 6600 社との連携により、企業・社会・地球環境の持続的な発展の一助となるため。
4) 連携先	印刷工業会, 全日本印刷工業組合連合会
5) 取り組みの内容	20SDGs 全体に関わる進プロジェクトを始めたが、環境に関わる取り組みは、25 年前から取り組み、CO2 排出量削減、産業廃棄物最終処分量削減、再資源化率の向上、廃プラ最終処分率の削減、VOC 排出抑制等に取り組んでいる。
6) 成果	CO2 排出量は 2010 年度比 30.5%75.3 万 t-CO2 削減。産業廃棄物最終処分量は年間 0.15 万 t とし、2020 年度目標 0.30 万 t を下回った。再資源化率も 2020 年度目標の 95.0%を上回る 97.7% を達成。廃プラ最終処分率 0.9%も目標を達成。2020 年の VOC 排出率目標 23.9%以下に対して実績 18.8%となり目標を達成している。
7) URL	社会責任報告書 日本印刷産業連合会のご案内 https://www.jfpi.or.jp/topics_detail6/id=68 で開示しております。
関連イメージ	 <p style="text-align: right;">GP 環境大賞・準大賞表彰式</p>

公益財団法人 日本サッカー協会

1) 団体の活動の中で重視しているゴール	ゴール 3
2) 連携・協働の取り組みで対象とするSDGs ゴール及びターゲット	ゴール 3
3) 取り組みの目的	<サッカーの普及> スポーツをより身近に感じ、幸せになれる環境づくり。
4) 連携先	東京藝術大学、各パートナー企業
5) 取り組みの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー日本代表戦におけるセンサリールーム（強い光や音が苦手なお子さんのための観戦スペース） ・JFA×KIRIN ファミリーチャレンジカップ（親子・多世代で一緒に参加できる、歩いてプレーする「ウォーキングフットボール」の大会） ・JFA マジカルフィールド Inspired by Disney（サッカーに触れたことがない小学校低学年の女子とその保護者のためのプログラム）
6) 成果	さまざまなパートナーと連携し、サッカーに触れる機会がなかった方々がスポーツの楽しさを感じ、人と人とのつながりの大切さを認識する中で、スポーツを続けたいと思うきっかけを提供できた。
7) URL	<ul style="list-style-type: none"> ・センサリールーム https://www.jfa.jp/news/00028906/ https://youtu.be/dvq068QGqXE ・JFA×KIRIN ファミリーチャレンジカップ https://www.jfa.jp/grass_roots/walkingfootball/kirinfamilychallengecup/ https://youtu.be/NSwx_l6e8tY ・JFA マジカルフィールド Inspired by Disney https://www.jfa.jp/grass_roots/MagicalField/ https://youtu.be/B0jNucFosGo
関連イメージ	 

一般財団法人 日本食品分析センター

1) 団体の活動の中で重視しているゴール	ゴール 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 12, 13, 14, 17
2) 連携・協働の取り組みで対象とする SDGs ゴール及びターゲット	ゴール 9, 17
3) 取り組みの目的	食品栄養や食品衛生等に関する学会, 研究会等の事務局として協力し, 事務局活動を通じて技術の向上・社会の発展に寄与する。
4) 連携先	日本食品科学工学会、日本食品分析学会
5) 取り組みの内容	-
6) 成果	-
7) URL	https://kikou.doshisha.ac.jp/reactivities/sdgs_research_pj/project.html

特定非営利活動法人(NPO) 道普請人

1) 団体の活動の中で重視しているゴール	ゴール 1, 8, 9, 13
2) 連携・協働の取り組みで対象とする SDGs ゴール及びターゲット	ゴール 8, 9, 13
3) 取り組みの目的	住民参加でのインフラ整備を通じた貧困削減
4) 連携先	ILO, 阪神高速道路株式会社
5) 取り組みの内容	2012 年ごろからケニアでの活動をきっかけに, ILO の若者雇用促進事業で, 道路整備研修を弊団体が行うようになった。また, 阪神高速道路(株)から若手社員を派遣していただき, 弊団体活動地での住民への道路整備に参加してもらっている。その分の寄付金をいただいている。
6) 成果	ILO と各地での道路整備が実現でき, 20,000 人日以上の雇用創出に貢献した。3000 人以上の住民が道路整備研修を受講した。
7) URL	http://coreroad.org/

関連イメージ	
--------	--

自治体

吉崎市役所

1) 団体の活動の中で重視しているゴール	ゴール 3, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14, 15, 17
2) 連携・協働の取り組みで対象とする SDGs ゴール及びターゲット	ゴール 4, 8, 9, 11, 12, 17
3) 取り組みの目的	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業の推進、企業と連携したアスパラガス AI 連動自動灌水システムの開発と展開。 ・市民対話会等のコミュニケーションインフラ、高校におけるイノベーション教育を通じた、主体的なまちづくりの推進 ・小学校、中学校における環境をベースにした SDGs 教育による人材育成とナッジによる子どもから地域の大人への意識行動変容を促す。
4) 連携先	株式会社オプティム（スマート農業 AI）、一般社団法人吉崎みらい創りサイト
5) 取り組みの内容	H30SDGs 未来都市及び自治体 SDGs モデル事業選定より、基幹作物であるアスパラガスの AI 自動灌水システム開発により、省力化、収量増加を図る。市民対話会等により、一人ひとりの創りたい島の未来に向けたアイデアを集積し、チーム作り、主体的に行動を起こす仕組みづくり。吉崎市版 ESD により、小中学生の教育と、地域でのインタビュー活動等を通して、大人の SDGs に関する意識・行動変容を促す活動を行なっている。
6) 成果	・スマート農業では AI 自動灌水システムの開発により、作業時間が 60 分から 0 分に短縮、収穫量が 16%ほど向上（R3 年度時点）

	・市民対話会には年間 250 名ほどが参加。イノベーションアイデアは 5 テーマ生まれている。・小学校海洋教育は 3 校から開始し、段階的に拡大。中学校は全 4 校で実施。
7) URL	-

川崎市

1) 団体の活動の中で重視しているゴール	ゴール 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
2) 連携・協働の取り組みで対象とする SDGs ゴール及びターゲット	ゴール 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
3) 取り組みの目的	スポーツを通じて地域の課題解決や SDGs の達成に向けた取組を推進するために、相互に連携、協力することを目的とした協定書を締結し、協働でセミナーやイベント開催などの普及啓発事業を実施している。
4) 連携先	株式会社 DeNA 川崎ブレイブサンダース, 株式会社川崎フロンターレ
5) 取り組みの内容	<ul style="list-style-type: none"> ●株式会社 DeNA 川崎ブレイブサンダース：令和 2 年 9 月に SDGs に関する協定を締結。年に数回共催でセミナーを開催している他、ホームゲームに合わせて SDGs の 17 ゴールすべてにチャレンジするイベントを開催。 ●株式会社川崎フロンターレ：令和 4 年 8 月に SDGs に関する協定を締結。ホームゲームに合わせたイベント開催の他、かわさきこども食堂ネットワークが抱える課題を持続可能な方法で解決するための支援を実施。
6) 成果	<ul style="list-style-type: none"> ●株式会社 DeNA 川崎ブレイブサンダース：令和 4 年 7 月開催のセミナーでは会場とオンライン合わせて約 170 人が参加。令和 5 年 1 月開催のセミナーでは約 50 名が参加（対面のみ）。令和 5 年 3 月にはホームゲームに合わせて 17 ゴールすべてにチャレンジするイベントを SDGs 体験型ブースを拡充して 2 日間実施予定。 ●株式会社川崎フロンターレ：令和 4 年 6 月開催のホームゲームイベントでは延べ約 7,400 人が参加。
7) URL	https://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/54-10-5-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html

関連イメージ



太陽光発電 プレイサンダース



フロンターレ協定

2023年3月発行

レポート企画・作成

内田 晴子 グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン (GCNJ)

大窪 直子 グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン (GCNJ)

小野 麻夕子 IGES サステナビリティ統合センター プログラムコーディネーター

小野田 真二 IGES サステナビリティ統合センター リサーチマネージャー

謝辞

執筆者は、本レポートのレビューを行い貴重なコメントを提供していただいた GCNJ SDGs タスクフォースメンバーを含む外部関係者および同僚に、心からの謝辞を表します。

表紙デザインについて

2030年までに持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)の達成を目指し、国連グローバル・コンパクト(UNGC)が定める4分野(人権、労働、環境、腐敗防止)10原則、及びグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)としても重点課題として位置付けている5つのSDGゴール(5.ジェンダー平等を実現しよう、8.はたらきがいも 経済成長も、12.つくる責任 つかう責任、13.気候変動に具体的な対策を、16.平和と公正をすべての人に)の取り組みが、連携と協働を通して、拡大・発展している様子を表現しています。



Network Japan

一般社団法人 グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン (GCNJ)

〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学本部ビル3F

TEL: 03-6803-8155

FAX: 03-6803-8156

E-mail: gcjnoffice@ungcjin.org

URL: <https://www.ungcjin.org/>

IGES

公益財団法人
地球環境戦略研究機関

公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES)

〒240-0115 神奈川県三浦郡葉山町上山口2108-11

TEL: 046-855-3700

FAX: 046-855-3709

E-mail: iges@iges.or.jp

URL: <https://www.iges.or.jp/>

この出版物の内容は執筆者の見解であり、発行元 (GCNJ 及び IGES) の見解を述べたものではありません。

©2023 Global Compact Network Japan and Institute for Global Environmental Strategies. 無断転載を禁ずる。